

# 1学年通信

山形県立米沢興譲館高等学校  
1学年  
第21号  
2016(平成28).11.10(木)発行

## 科学の甲子園山形県大会 米沢興譲館1・2・3位独占！ 3年連続 県代表として全国大会出場！

10月23日(日)に行われました科学の甲子園山形県大会に出場した本校3チームが上位を独占しました。科学の甲子園は下記のような競技で実施され、1位のチームは3月17日～20日につくば市で行われる全国大会に山形県代表として出場することになります。

### 科学の甲子園山形県大会 競技内容

筆記競技(120分)

実技競技 実験系(60分) → 実験競技①(物理系) + 実験競技②(生物系)

実技競技 総合系(120分) → 総合系実技競技の内容は以下の通り

#### 「決められた距離を正確に走る車」

規定の製作材料を使って車を製作し、レースを各チーム2回行う。レースでは、スタートラインから車をスタートさせ、斜面を滑り降りた後、平面を走ってあらかじめ定められたゴールライン(スタートラインから8m～11m程度)にどれだけ近い位置で停止できるかを競うものとする。車は事前に製作して持ち込んでよい。なお、スタートラインからゴールラインまでの距離は、大会当日に発表する。

優勝した米沢興譲館Aチームは実技競技 総合系でゴールライン上に正確に車を止め、見ていた方々を驚かせたと競技終了後に聞きました。実技競技 総合系の得点は満点だったそうです。また、2位、3位となったBチーム、Cチームも筆記競技や実験競技で参加チーム内でトップの成績となるなど活躍しました。

昨年度も本校チーム(現3年生)が山形県代表として全国大会に出場し、見事トヨタ賞(実技競技生物系で全国1位)を受賞しています。今年度出場するAチームのメンバーにも頑張っ欲しいと思うとともに、Bチームに参加した1年生2名を中心に、是非来年度も科学の甲子園に出場して先輩の跡を継いで欲しいと思います。

右には、今回出場したチームのメンバーとBチームの一員として科学の甲子園山形県大会に出場した生徒の感想を載せてあります。

### 科学の甲子園山形県大会 出場チーム

A	
2-1	O. K
2-1	T. Y
2-1	W. K
2-2	K. T
2-1	K. R
2-2	S. R
2-3	O. Y
2-3	S. K

B	
2-3	Y. K
2-2	Y. S
2-2	S. M
2-3	H. I
2-2	M. R
2-5	Y. T
1-2	T. A
1-4	T. T

C	
2-1	O. H
2-1	K. T
2-1	S. H
2-2	S. M
2-2	S. N
2-3	O. S
2-3	W. K
2-4	S. S

### 科学の甲子園山形県大会 出場者の感想

私は筆記と生物実技に出場しました。異分野が融合された問題が多く、興譲館のF Sでの活動に通じるものを感じました。問題に取り組む中で、来年に向けて身につけるべき力が見えてきました。まずは、知識を定着し、利用する力、次にアイデアを形にする実行力、そして、課題の本質を見極める力です。今回の結果は、先輩方の日々の研鑽の賜物です。私も己を磨き、来年こそ全国の舞台へ進みます。(1-2 T. A)

初めて科学の甲子園を知ったときは、単純に“おもしろそうだなあ”と他人事のように思っていました。しかし、集められた数十人の一年生と模擬体験に行き、グループで実験したとき、1人ではなくみんなで知恵をより集めて問題を解くことのおもしろさを感じました。このとき、“おもしろそうだなあ”から“絶対に行きたい!”と思うようになりました。分からないところを互いに埋め合って1点に向かっていくというのが新鮮で、これが学問をする上で一番大切なことだと思いました。

その後、1年生から2名、科学の甲子園への出場が決まりました。選ばれてとても嬉しかったのですが、知らない1年生と初めて会う2年生にすこし不安でした。しかし、明るくてとてもおもしろい人達だったので、楽しくやっていました。総合実技という競技では、ある“ブツ”を作っていないといけなかったのですが、みんなで夜の7時まで試行錯誤して完成させた時の喜びがとても印象に残っています。

10月23日、本番では筆記競技、実技競技で奮闘し、総合実技競技では興譲館のホームグラウンドと思わんばかりの盛り上がりで、先生は「お前らなあ・・・」的なことを言っていました。そんなこんなで、興譲館の3チームが上位1・2・3位を独占し、Aチームが全国大会行きの切符を手に入れました。自分はBチームで惜しくも2位だったのですが、来年は全国大会に行けるように、仲間達と協力して県1位を取りたいと思っています。そして、今回はK先生からお菓子やジュースなどをごちそうになりましたが、来年、自分たちが優勝したら焼肉屋に連れて行って下さい。

とても良い体験をさせていただき、ありがとうございました。(1-4 T. T)

裏面あり

## 山形県高校生読書体験記コンクール 優良賞！ (県代表 全国審査へ)

1年3組S.Kさんが山形県高校生読書体験記コンクールにおいて優良賞となり、山形県代表として中央選考委員会(全国審査)に進むこととなりました。山形県内の入賞作品は5編あり、その中から優良賞の1編のみが中央選考委員会に進みます。

以下は、曾根さんの読書体験記コンクール作品です。みなさんにも共感できることがたくさんあると思います。是非読んでみて下さい。

### 「前に進む」

1年3組 S.K

「あきらめる勇気があったんだ。続ける恐怖なんてきつと乗り越えられる。」

初めてこの本を開いたとき、裏表紙のこの言葉が目にとびこんできました。あきらめるのに勇気なんているのかな、続ける恐怖とは何だろう・・・そんな考えを巡らせながら本を読み進めました。

長距離走の有望な選手だった高校生の眞家早馬は、ある大会で膝に怪我を負ってしまいます。長距離走を続けるかどうか明確な答えを出さないでいる中、早馬は料理研究所の井坂都に出会います。そして、料理をすることをきっかけとして自分の陸上に対する想いと向き合っていきます。

早馬が陸上から目を背けていた理由、それは、才能ある弟への嫉妬や自分の限界がわかることへの恐怖から逃げていたからでした。

そんなとき私は、中学二年のころの駅伝大会を思い出しました。毎年行われる市の駅伝大会は、市内の中学校が集まりたすきをつないでタイムを競うものです。しかし、私の中学校は市内で最も規模が小さく陸上部もごくわずかしかおらず、長距離の苦手な私が選手の一人として選ばれてしまいました。そのときの私は激しい劣等感に襲われ、走る気力も失せ軽い足のケガを理由に練習を休んでいました。渋々出場した大会は、案の定よい成績ではありませんでした。大会後、私の中に残ったのは、順位でもタイムでもなく、練習から本気で取り組まなかった自分への後悔でした。もっと一生懸命取り組んでいれば、見える景色も気持ちの持ち方もかわっていたのだろうか。私の心の中にはそんな思いが巡り続けていました。

今思えば、当時の私は他人との比較や周りの評価ばかり気にして、大会に出場することの本来の意味や楽しもうとする姿勢を忘れていたのだと思います。それはきつと早馬も同じかもしれません。本当に大切なのは、自分の中でいかにベストを尽くせるのかということなのだ、駅伝大会を、そして早馬を通して、再認識しました。

早馬は都との出会いから、弟の春馬の健康のために工夫を凝らした食事をつくることをはじめます。陸上に挫折しながらも、それでも「支える」という立場で陸上に関わろうとする早馬の姿から、陸上に対する強く熱意が伝わってきました。

そして早馬は、この「料理」をきっかけとしてスポーツ栄養士になることを決意します。つまりこれは、陸上をあきらめるということです。

陸上一筋でがんばってきた早馬にとって、これはとても大きな決断だったと思います。しかしこの決断ができたのは、都をはじめ、先輩の助川や弟の春馬との関わりの中で、自分の足の限界や気持ちの弱さと向き合うことができたからこそだと思います。早馬の姿から、「あきらめる」ということは、単に挫折するというのではなく、「自分に合った違う道を探して前に進む」ことでもあるのかもしれないと学びました。

それと同時に、物事を「続ける」ことの難しさも実感しました。早馬はいつも先頭を走っていて、周りから見れば余裕さえも感じるほどでした。しかし、早馬が感じていた「もう強者でいられないかもしれない恐怖」とは、トップを走り続けるという孤独や、周りからの期待から生まれたものだったのかもしれないと思います。

トップにいるからこそ、追い求められている立場だからこそ、背負わなければならない「孤独」や「期待」は相当重くて辛くて苦しいものだと思います。しかし、その苦しみにまどわされずに、自分の本当の気持ちを見つめて生きていくことが大切なのだと私は思いました。

「あきらめる勇気」と「続ける恐怖」

この本を読み終えて、もう一度考えてみました。

私たちがこれから生きていく人生は、「あきらめる」と、「続ける」ことの連続のように思います。何かに挑戦するとき、そこには必ず目的があり、そのための努力を続けたり、時には挫折を味わったりすることもあるでしょう。自分の限界を知り、そして向き合い、新しい道を進んでいく勇気、つまり、「あきらめる勇気」と、不安や孤独などの、「続ける恐怖」に打ち勝つ力。これこそが、前に進んでいくために大切なものだと思います。

私にはこれから、たくさんの試練が待っていると思います。自分の限界に直面したり、自分の進む道に不安を覚えたりすることも多くあるでしょう。だからこそ、早馬から学んだ「あきらめる勇気」と、「続ける恐怖」に立ち向かう力をもって、一步一步前に進んでいきたいと思っています。

(小学館 『タスキメシ』 額賀濤 著)